

日本の歴史

[illegible]

省略





ゆうりやく
第21代 雄略天皇
大泊瀬幼武尊
456~79
the Emperor Yuryaku



せいらい
第22代 清寧天皇
白髮武臣國推稚日本根子天皇
480~84
the Emperor Seinei



けんそう
第23代 顕宗天皇
弘計天皇
485~87
the Emperor Kenzo



にんけん
第24代 仁賢天皇
億計尊
488~98
the Emperor Kennin



ぶれつ
第25代 武烈天皇
小泊瀬稚鷯鷯天皇
498~506
the Emperor Buretsu



けいたい
第26代 継体天皇
男大迹尊
507~31
the Emperor Keitai



あんかん
第27代 安閑天皇
勾大兄
531~35
the Emperor Ankan



せんか
第28代 宣化天皇
武小広国押盾尊
535~39
the Emperor Senka



きんめい
第29代 欽明天皇
天國排閑広庭天皇
539~71
the Emperor Kinmei



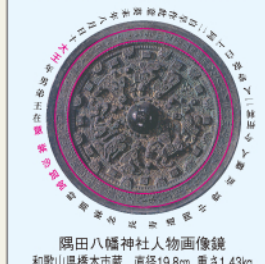
び たつ
第30代 敏達天皇
詔語田沙中倉太珠敷尊
572~85
the Emperor Bitatsu



岡田山古墳出土鉄刀(六世紀後半) 島根県松江市
稲荷山古墳出土鉄剣(五世紀後半) 埼玉県行田市
石上神宮七支刀(四世紀後半) 奈良県天理市

漢字の使用

刀身(上図)や鍔面(下図)の二つの円に囲まれた圏には文字が刻み込まれている。



陽田八幡神社人物画像鏡
和歌山県橋本市蔵 直径19.8cm 重さ1.43kg



①飛鳥寺釈迦如来像
(止利仏師・作)
※飛鳥彫刻の特徴は、アルカイックスマイル(古拙的微笑)にある。



②半跏思惟像
(広隆寺)



③半跏思惟像
(新羅時代作)



▲6C初~7Cの朝鮮

【4世紀末~5世紀の遷来】

朝鮮半島では天候不順から飢饉状態になっていて、高句麗の南下政策とも重なり、飢饉と戦争を避けて百濟・任那・新羅などから渡来し畿内中心に定住した。主に手工業的技術者集団で、大和政権に編入された。

<弓月君> (秦氏の祖)

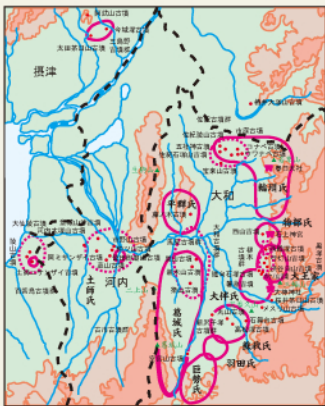
養蚕・機織を伝える

<阿知使主> (東漢氏の祖)

文筆にすぐれ、史部を管理

<王仁> (西文氏の祖)

「論語」「千字文」を伝えたと言われる



▲大和地方の有力豪族の勢力範囲と古墳



▲仏教の伝来 (前6世紀~後6世紀)

462 済、没。興、宋に遣使

463 百濟から陶工・画工が来日

478 興、没。武、宋に遣使・上表

479 南齊高帝、倭王を鎮東大將軍とす(『南齊書』)



南齊高帝



梁武帝

486 フランク王国、建国(〜843)

一氏姓制度の強化一

502 梁武帝、倭王を征東大將軍とす(『梁書』)

天皇	大臣	大連
21 雄略	平群真鳥	大伴家原 物部目
26 繼體	巨勢男人	大伴金村 物部麁鹿火
29 欽明	蘇我稲目	大伴金村 物部尾輿
30 敏達	蘇我馬子	物部守屋

▲5世紀末~6世紀末の大和政権
(大化の改新後に改正された)

507 大伴金村ら男大迦王を継体天皇とする

511 都を山背国筒城に移す

512 大伴金村、任那の4県を百濟に割讓

513 百濟、五経博士を送る

522 南梁の達摩、佛教を伝える

一皇位継承で豪族対立一

527 筑紫国造磐井、反乱(〜28)。

528 大連・物部麁鹿火、磐井の反乱を平定。

534 都を大倭勾金橋宮に移す。

~各地に屯倉・名代を定める~

538 百濟聖明王、仏像と経論を日本に送る

<仏教伝言> (『書紀』は552年)

552 大臣・蘇我稲目と大連・物部尾輿、崇仏論争す

554 百濟、援兵を請う。百濟聖明王、敗死

~五経、易、医博士、採薬師、楽人ら来日~

562 任那の日本府、新羅に滅ぼされる

一飛鳥文化一

577 百濟から造仏・造寺工らが来日

【6~7世紀の遷来】

大和政権の朝鮮進出や豪族郡・帯方郡の滅亡、百濟・高句麗の滅亡など政情の変化で日本に百濟・任那・高句麗の人々が渡来してきた。『新撰姓氏録』(815年)によると氏族1182氏のうち約30%(326氏)が渡来系で占められている。後に全国に分散され、東国(武蔵・上総・上野・常陸・相模・伊豆)などに編入された者も多い。地名などの由来が今なお全国に多数残されていて、儒教・仏教・易・暦・医などを伝え、飛鳥文化の形成に貢献した。五経博士(『易経』『書経』『詩経』『礼記』『春秋』)、司馬達等(孫に止利仏師)、親朝(曆本を伝える)、雲徴(紙墨・絵の具の製法)、味摩之(伎楽の舞)など。